明日からの指導改善のヒントがここに！

令和６年度　全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた

指導改善資料2024

こんな悩み・疑問は、ないですか？

国語

P.1　まとめが本文の内容ばかりになってしまうなぁ。

P.5　「知識及び技能」を定着できるようにするには？

算数 数学

P.9　式や答えは書けても、考え方が書けないなぁ。

P.13　自分でやってみる時間をしっかりとるには？

児童生徒質問調査

P.17　ＩＣＴ機器を効果的に活用できていないなぁ。

P.18　児童生徒を主体にした授業で大切なことは？

A改善

C評価　P計画

D実行

自校の指導改善サイクルを確立するための

ポイント と アイデア例 があります！

岐阜県教育委員会　義務教育課

国語　指導改善ポイントⅠ

もやっと

自分の考えをまとめる場面で、分かったことやあらすじなどの本文の内容ばかりになってしまう。**自分の考えをまとめることができるようになるには**、どんな指導が大切かな？

ポイント

自分の考えをまとめる際には、

- ○**「目的」や「学習課題」などを確かめる**
- ○本文の内容を**自分の知識や経験などと結び付ける**

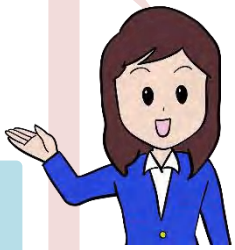
例　**指導事項「考えの形成」の力を身に付ける**

「目的」や「学習課題」を確かめる

本文の内容　結び付けて　**自分の知識や経験など**

↓

自分の考えをまとめる



参考　「考えの形成」の学習に向けて、毎時間、こんな学習が効果的です！

第１時	第２時	第３時	第４時	第５時	第６時	第７時
内容と構造の把握	精査・解釈					考えの形成

毎時間の指導でも工夫を

① 読む「目的」を意識することを促しましょう。

② 今日の学習で理解したことの中に、自分が既にもっている知識や経験と結び付くことはないかを考えながら、学習を振り返ってまとめるよう指導しましょう。毎時間の蓄積が「考えを形成」する学習につながります。

アイデア例　では…
「C　読むこと」領域「考えの形成」の学習での指導のポイントを紹介します！

指導改善のポイントは、どの教科でも活用できますね！

小・国語 授業アイデア例Ⅰ①

学年・領域	第２学年・読むこと
教材名	紙コップ花火の作り方
実施時期	１１月頃

○「目的」や「学習課題」などを確かめる
○本文の内容を自分の知識や経験などと結び付ける。

すっきり

【学習活動】

1 単元の目標を確認し、これまでの学習で読み深めてきたことを確認する。

2 本時の課題と課題達成の姿を確認する。

使ってみたい「せつめい名人のわざ」を伝え合おう。

3 課題に対する自分の考えをまとめ、交流する。
（クラウドで共有）

★「目的」や「学習課題」を確かめます。
★理由や経験と結び付けます。

★書く前に仲間と話したり、書いたことを交流したりすることで、考えが広がったり深まったりします。

4 もう一度考えを書き直したり、加えたりする。

5 本時の学習を振り返る。
（ＩＣＴ端末に蓄積）

こんな指導になっていませんか？

使ってみたい「せつめい名人のわざ」について書きましょう。

Ａさん：写真を入れるわざを使って説明書を作りたいです。 わざ

どうしてそう思ったのか分からないなぁ。より課題に沿って考えをまとめるには、どんな指導が大切かな？

こんな指導に改善しよう！

「目的」、「学習課題」を確かめ、理由や経験と結び付けます。

何のために、「せつめい名人のわざ」を使いますか。

「分かりやすい説明書にする」ためです。

そのために、どんな「せつめい名人のわざ」を使ってみたいですか。「どうしてか」というわけと、これまでに説明書を使った時のことを思い出して、使ってみたい「せつめい名人のわざ」について自分の考えを書きましょう。

Ａさんの考え

私は、まとまりをはっきりさせ、文に合ったしゃしんを入れて、みんなに分かりやすいせつめい書を作りたいと思いました。

どうしてかというと、この前の生活科の時間に、一年生がしゃしん入りのせつめい書を使いながら、楽しそうにどんぐりごまを作っていたことを思い出したからです。

その時みたいに、このせつめい書を読みながら、友達といっしょにおもちゃを作ったら、あそぶ時にもっと楽しくなると思うからです。

わざ　わけ　経験

ICT

活用しよう ICT

友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる〔児童生徒質問 28-(6)〕

- 板書やまとめを撮影し、タブレットに保存しておく等、これまでの学習内容を蓄積しておくことで、児童がのちの学習に生かす機会を生み出すことができます。
- 協働学習支援ツールを活用して、記述した内容を共有することで、仲間の考えを知って意欲を高めたり、自分と比較して考える力を高めたりすることにつながります。

小・国語　授業アイデア例Ⅰ②

学年・領域	第５学年・読むこと
教材名	固有種が教えてくれること
実施時期	１１月頃

○「目的」や「学習課題」などを確かめる
○本文の内容を自分の知識や経験などと結び付ける。

すっきり

【学習活動】

1　単元の目標を確認し、これまでの学習で読み深めてきたことを確認する。

2　本時の課題と課題達成の姿を確認する。

筆者の考えや説明の工夫について、資料の効果にもふれながら、自分の考えをまとめよう。

3　課題に対する自分の考えをまとめ、交流する。
（クラウドで共有）

★「目的」や「学習課題」を確かめます。
★本文の内容を資料と結び付けます。

★書く前に仲間と話したり、書いたことを交流したりすることで、考えが広がったり深まったりします。

4　自分の書きまとめた文章をもう一度見直す。

5　本時の学習を振り返る。
（ＩＣＴ端末に蓄積）

こんな指導になっていませんか？

読んだ内容をもとに、自分の考えを書きましょう。

Ａさん：筆者の主張と同じで、固有種の住む自然環境を大切にしていきたいです。　自分の意見

自分の意見はもつことができているけれど…。より課題に沿って考えをまとめるには、どんな指導が大切かな？

こんな指導に改善しよう！

「目的」、「学習課題」を確かめ、本文の内容を資料と結び付けます。

どんなことを大切にして、自分の考えをまとめますか。

伝えたいことがより伝わるように、資料とつないで…。

では、筆者の考えや説明の工夫について、自分が伝えたい考えがより伝わるように、自分の伝えたいことの手がかりになった本文の内容と、その内容を説明している資料をつないで、自分の考えをまとめましょう。

筆者の考えを支える内容と資料を結び付けることで、より筆者の考えが伝わりやすくなっているという効果にもふれることができます。

Ａさんの考え　ICT

内容

筆者の使った資料ーや③段落の内容から、大陸に近いところにあるイギリスと比較して、日本の固有種がどれくらい多いのかが分かりました。また⑧段落にある資料５でニホンオオカミの姿をイラスト以外で初めて見ることができました。

資料

筆者の主張にあるように、すでに絶滅したほ乳類のように二度と会うことができない動物を出さないために、私は固有種の生きられる自然環境を大切にしていきたいです。

筆者の考え

そのために、自分にできることは何かを考えて生活していきたいです。

自分の意見

活用しよう　ICT

友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる〔児童生徒質問 28-(6)〕

- タブレット等を活用して、学習した内容を蓄積しておくと、のちの学習に生かすことができます。
- 協働学習支援ツールの機能を使って、児童の記述を共有することで、効率よく仲間の考えを知ることができます。

中・国語　授業アイデア例Ⅰ③

学年・領域	第２学年・読むこと
教材名	モアイは語る－地球の未来
実施時期	１０月頃

○「目的」や「学習課題」などを確かめる
○本文の内容を自分の知識や経験などと結び付ける。

すっきり

【学習活動】

1　単元の目標を確認し、これまでの学習で読み深めてきたことを確認する。

2　本時の課題と課題達成の姿を確認する。

地球の未来のために、私たちは何ができるか、考えを書こう。

3　課題に対する自分の考えをまとめ、交流する。
（クラウドで共有）

★「目的」や「学習課題」を確かめます。
★知識や経験などと結び付けます。

4　「筆者は結論で『私たち』を３回も使い、読み手に何を伝えたかったのか」、本文の表現に着目して考えを深める。

5　仲間のどの意見に共感ができたか、理由とともに交流し、自分の考えを再構築する。
（クラウドで共有）

6　本時の学習を振り返る。
（ＩＣＴ端末に蓄積）

こんな指導になっていませんか？

読んだ内容をもとに、私たちに何ができるか、自分の考えを書きましょう。

Ａさん：私は、森林資源を使った身近な紙を無駄遣いしないようにすることが、すぐできることだと考える。　自分の意見

自分の意見はもつことができているけれど…。より課題に沿って考えをまとめるには、どんな指導が大切かな？

こんな指導に改善しよう！

「目的」、「学習課題」を確かめ、自分の知識や経験などと結び付けます。

私たちにできることをまとめるのは、なぜですか？

地球の環境問題が深刻で、このままでは地球の未来が危ないからです。

筆者の主張について、自分が伝えたい考えがより伝わるように、自分の知識や経験などとを結び付けて、自分の考えを書きましょう。

私は、森林資源を使った身近な紙を無駄遣いしないようにすることが、すぐできることだと考える。理科や社会の授業で、木を原料にして、紙は作られていると学習した。今ではICTが普及し、よりペーパーレスになっている気がするが、学校では、まだまだ紙が多用されている。この状況から裏面や余った紙を再利用したりすることが簡単で効率よく長期にわたってできることだと考える。　自分の意見　知識や経験

仲間の考えや理由を仲間と交流したり、今まで学習した筆者の表現の意図を確かめることで、さらに自分の考えを広げたり、深めたりできます。

Aさんの考え

私は、「FSCトレードマーク」の付いた商品をもっと危機感をもって利用しなければいけないと考えた。
はじめは、･･･と考えていた。このことも大切だが、Bさんの発言から･･･という発想が大切だと気付いた。
そして、単に森林資源を大切にしたいではなく、一人一人の強い意識が必要なこともCさんやDさんの繰り返し表現に着目することから考えることができた。
私は、「FSCトレードマーク」の利用を自分が積極的に行っていくことはすぐにでもできるし、その長期的な行動で、この危機迫る地球の状況をより多くの人々に伝えていかなければならないと考える。

ICT

活用しよう　ICT

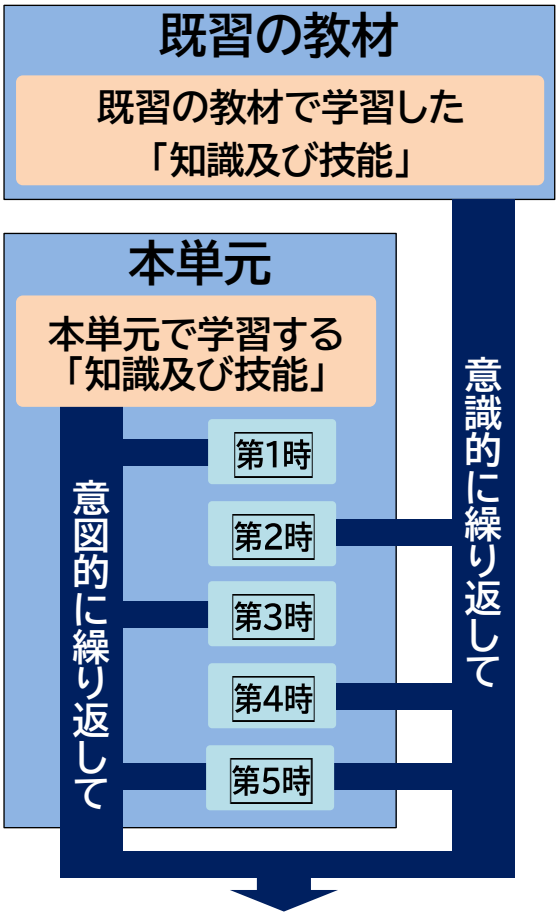
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる〔児童生徒質問 28-(5)〕
・ノートに書きまとめた本時の学びを写真に撮り、１枚の単元シートにまとめ蓄積します。導入だけでなく、単元を通して必要に応じて立ち返ることで、思考がつながります。
・本時の出口で自分の考えを分かりやすく伝えるツールとして活用すると、学びの実感につながります。

国語　指導改善ポイントⅡ

順序を捉える、比喩表現などの表現の技法、意見と根拠をつなぐ、主語と述語の関係、語彙、漢字…など**一度学習したはずの「知識及び技能」が定着していかないなあ。**

ポイント

「知識及び技能」は、意図的に繰り返し指導します。



既習の教材で学習した「知識及び技能」や本単元で学習する「知識及び技能」を**本単元の単位時間の中で、意図的に繰り返し指導する**ことで、確実な定着を図ります。

アイデア例では…
単位時間の中で指導するポイントを、領域ごとに紹介します！

国語で身に付けた「知識及び技能」は、どの教科でも活用できますね！

小・国語　授業アイデア例Ⅱ①

学年・領域	第３学年・読むこと
教材名	ありの行列
実施時期	１月頃

「知識及び技能」を意図的に繰り返し指導します。

すっきり

【既習の「知識及び技能」】 第2学年・上　じょうほう「つながりをとらえよう　じゅんじょ」

■順序を表す言葉　二、三日たつと、　やがて、　このころになると、

【学習活動】

1　単元の目標を確認し、前時の学習内容を振り返る。

2　本時の課題と課題達成の姿を確認する。

「ありの行列」を、短くまとめよう。

3　ウィルソンの行った実験やありが行列を作る仕組みに着目して、大事な言葉や文を見付ける。

★中心となる語や文を見付ける中で、段落と段落を接続する語句に注目するよう指導を工夫します。

4　見付けた言葉や文をもとに、「ありの行列」を短くまとめる。

5　授業を振り返る。（動画コンテンツの活用）

ICT

「ありの行列」の学習の中で、「じゅんじょをあらわす言葉」を指導する。

それぞれの段落から、大事だと思う言葉や文は見付かりましたか。

ウィルソンが、ありの行列ができるまでにどんな実験や研究をしたかが分かる文を見付けました。

では、ウィルソンの実験や研究が書かれている段落を見つけるにはどの言葉を手掛かりにしたらよいでしょうか。
2年生の「たんぽぽのちえ」の時に、「二、三日たつと、」「やがて、」という言葉が段落の始めにあったのを学習しましたね。
それを意識して、もう一度読み返してみましょう。

「はじめに」とある段落で、巣から少しはなれた所にさとうをおく実験をしていることが分かります。「次に」とある段落から、大きな石を置いて、行列のじゃまをする実験をしていることが分かります。

「そこで」とあるので、2つの実験をして考えた後に、ありの体の仕組みを研究していることが分かります。

ウィルソンの実験や研究

①はじめに
ありの巣から少しはなれた所に、ひとつまみのさとうをおく
←
・巣の中からたくさんのはたらきあり
・列を作って、さとうのところまで行列は道すじから外れていない

②次に
道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎる
←
・行列は、石のところでちりぢり
・一匹が道のつづきを見つけた
・またありの行列ができた

そこで
はたらきありの体の仕組みを細かに研究
←
・ありは、おしりのところから、とくべつなえきを出す
・においのある、じょうはつしやすいえき

2年生で学習した段落のはじめにある「じゅんじょをあらわす言葉」に注目すると、段落と段落のつながりが分かりますね。

活用しよう　ICT

画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる〔児童生徒質問 28-(4)〕
文章と挿絵で読み取ったことを、さらに実験動画で確認することで、書かれていることを視覚的に実感することができます。言葉をより具体的に獲得することに有効です。

小・国語　授業アイデア例Ⅱ②

学年・領域	第６学年　読むこと・書くこと
教材名	『鳥獣戯画』を読む 発見、日本文化のみりょく
実施時期	１１月頃

「知識及び技能」を意図的に繰り返し指導します。

すっきり

【既習の「知識及び技能」】 第6学年「やまなし」「詩から表現の工夫を学ぶ」

■色やたとえの表現　比　喩　反　復　擬声語・擬態語

【学習活動】

1　単元の目標を確認し、前時の学習内容を振り返る。

2　本時の課題と課題達成の姿を確認する。

選んだものの良さが読む人によく伝わるように文章を工夫して書こう。

3　「『鳥獣戯画』を読む」で使われた表現の工夫を思い出す。

4　グループでＩＣＴ端末を使って表現の工夫ができそうなところをアドバイスし合う。
（クラウドで共有）

★今までに学んだ表現の工夫を思い起こし、自分が書くときに表現を工夫するとよい部分に気付くように促します。

5　授業を振り返る。

「やまなし」や「詩の学習」で学習した「表現の技法」を、「『鳥獣戯画』を読む」「発見、日本文化のみりょく」の学習の中で指導する。

今までの「詩の学習」では、「比喩」や「反復」などの表現の工夫を学習してきましたね。今回学習した「『鳥獣戯画』を読む」では、読み手に絵巻物のよさを伝えるために、筆者はどんな表現の工夫をしていましたか？

「比喩」で何か別のものに例えたり、一文を短くしてテンポよく読めるように工夫したりしていました。

「やまなし」でも、「色やたとえの表現」が使われていました。今、書いている文章にも、同じような工夫が使えそうなところはないか、一度読み直してみましょう。自分で読めたら、グループの仲間と工夫できるところをアドバイスし合いましょう。

ICT

私が伝えたい和食の魅力は２つあります。１つ目はとても見た目がきれいなことです。食材の色どりはもちろん、盛り付け方や器にまでこだわりがあり、四季や自然の美しさが表現されています。

２つ目は「だし」をとってうまみを十分に味わえるような味付けになっているところです。…

「見た目がきれいなことです」というよさが、もっと伝わるような書き方ができるといいね。例えばここに「比喩」を使って･･･

そうだね。１つ目の魅力の最後に、例えば「それは、まるで１枚の絵画のようです。」という一文を入れてみるよ。

よい表現の工夫に気が付きましたね。「比喩」で別のものに例えると読み手にイメージがよく伝わります。さらに、工夫を･･･。

活用しよう　ICT

自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる〔児童生徒質問 28-(5)〕
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる〔児童生徒質問 28-(6)〕
ICT 端末を使って文章を書くことで、仲間と情報を「共有」できます。また、書いたり消したりして、たくさんの表現を試すことが容易にできます。

中・国語　授業アイデア例Ⅱ③

学年・領域	第１学年　話すこと・聞くこと
教材名	話題や展開を捉えて話し合おう
実施時期	１１月頃

「知識及び技能」を意図的に繰り返し指導します。

すっきり

【既習の「知識及び技能」】 第1学年「思考のレッスン　意見と根拠」

■意見と根拠が、無理なく結び付いているか。

「根拠」とは

「意見」と「根拠」の結び付き

【学習活動】

1　単元の目標を確認し、前時までの学習内容を振り返る。

2　本時の課題と課題達成の姿を確認する。

根拠を明確にして、自分の考えをまとめよう。

3　話し合いの話題に対する自分の意見や根拠を付箋に書き出す。
（ICT 端末での情報収集）

4　意見と根拠の結び付きを確かめながら、自分の考えをまとめる。

★既習の「思考のレッスン　1　意見と根拠」を参考にすることで、意見に対する適切な根拠について考えられるよう工夫する。

5　授業を振り返り、次の時間の見通しを立てる。

「思考のレッスン」で学習した「意見と根拠の結び付き」を「グループ・ディスカッション」の学習の中で指導する。

【話し合いの話題】 よい話し合いにするための三か条を決める

時間がない中だと、一部の人の意見だけで決まってしまうことが多いから、「時間をしっかり取って議論すること」が大事だと思うな。

ICT

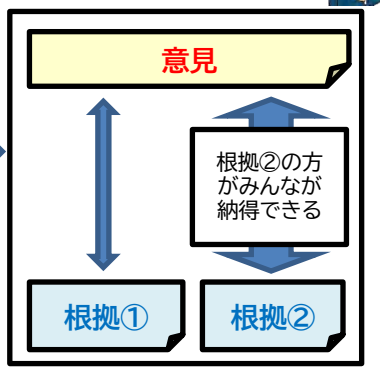
前の「思考のレッスン」の教材で「意見と根拠の結び付き」について学習しましたね。付箋に書いた意見と根拠が、無理なく結び付いているかどうかなどを確認してみましょう。

よい話し合いにするための三か条

意見　皆の意見を尊重し、十分に議論する。

根拠①　国会でも、何日も議論して、ようやく……。

根拠②　合唱曲を決める話し合いの時には……。



【書き出した付箋の例】

今回の目的を考えると、根拠②の方がみんなが納得できると思うな。
あのとき、納得できていない人が何人もいたから…。

次回、話し合うときにも、相手の意見を支える根拠を落とさず聞いて、相手の意見と根拠の結び付きを確かめながら話し合いましょう。

活用しよう ICT

分からないことがあった時に、すぐ調べることができる〔児童生徒質問 28-(2)〕

自分の考えをまとめる際、「一人で沈思黙考する、周りの仲間と相談しながら考える、教師と対話する」など、課題解決に向けて最適だと考える方法で取り組めるようにします。その中で、インターネットを活用して情報を収集することで、客観的な事実や信頼性の高い情報などを獲得することにつながっていきます。

算数・数学 指導改善ポイントⅠ

もやっと

式と答えは書くけれど、なかなか**自分の考えが表現できない**なぁ。

ポイント

① 4つの視点から発問しましょう。

根拠
- どうしてそう考えようと思ったの？
- どうしてそう考えられるの？

解釈
- 図（式）でいうとどういうことなの？
- ～さんの考えを、自分でも説明できる？

統合
- ようするにどのように考えるの？
- 以前学習したことと比べてどうですか？

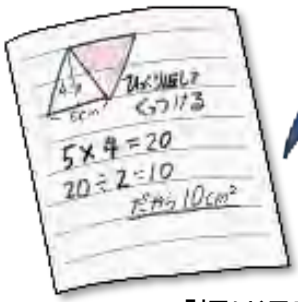
発展
- 他の方法でも考えることはできない？
- 数値や条件を変えても同じようにできる？

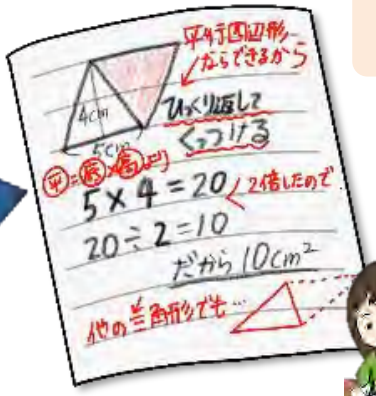
② 考えを「書く・振り返る」指導をしましょう。

考えを書くように指導する。

4つの視点から振り返るよう指導する。

まずは「考えたこと」を考えたとおりに書くことから。
書くことで振り返ることができる。





理由が曖昧だったところはなかったかな？

「他の図形でもいえるのか」と考えを広げていけたかな？

→違ったところを修正
足りないところを付け足す

理由が足りなかったなぁ。次は、他の図形でも考えていこう！

「振り返る」ことで、よりよい考え（表現）にしようとする態度が育ちます。

小・算数 授業アイデア例Ⅰ①

学年	第２学年
単元	たし算とひき算
時期	１月頃

根拠 解釈 統合 発展 の視点から
発問を具体化しましょう。 すっきり

過程	学習活動
導入	○問題の提示 きのう あさがおのたねを 16こ あつめました。今日も 何こかあつめると 全部で 40こ になりました。 今日は 何こ あつめましたか。 ・問題解決の見通しをもつ。 図を使って考えれば、たし算かひき算かはっきりすると思うよ。
展開	○ 課題 たし算になるか、ひき算になるかはっきりさせるために図に表して説明しよう。 <考えづくり> ・問題の場面を図に表して立式をする。 きのう 16こ / 今日 □こ / 合わせて 40こ 式 40−16=24 こたえ24こ 図をかいてみたけれどこれでいいのかな。 16こ / 40こ / □こ ○類似問題の提示 トランプを何まいかもっていました。7枚もらったので、全部で 20 枚になりました。はじめに持っていたトランプは何まいでしょう。 ・１問目と同様に図をかいて場面を捉えて立式し、答えを求める。 〈大切になる考え方〉 はじめは何算でもとめるかはっきりしなかったけれど、場面を図に表すと、「ぶぶん」と「ぜんたい」がはっきりするから何算で求めるかはっきりするね。
終末	○評価問題に取り組み、自分の言葉で説明する。 ・本時の学びを振り返り、自分の考えを修正したり、付け足したりする。 ・NEW!GIFU ウェブラーニングに取り組む。

個別の支援が必要な児童への指導

自分で考えることはできるけれど、考えが十分でない児童への指導

【全員が自分の考え（見通し）をもつための発問】

・「全部で」だからたし算でいいよね。（誤答を示す）

理解が不十分な子供の状況を捉え、**子供の代わりに先生があえて誤答を示す**ことで、「違うよ。だってね･･･」と、子供から**根拠を引き出す**ことができます。

【誰一人取り残さないようにするための個に応じた発問】

・（□で穴埋めできる図を差し示して）この図で説明できますか？ 解釈

□こ / □こ / 合わせて□こ

教科書や手がかりなどをもとに**「解釈」することから始める**ことも大切です。

・どうしてこの式（40−16）になるか図を使って説明できそうですか？ 根拠

・ひき算になるのは図のどこから分かるのかな？ 解釈

考えの**「飛躍」や「曖昧さ」に気付くよう**、即時評価・指導をしましょう。

ICT

・（ICT を使って図を送信し）この図を使って、どこが「部分」で、どこが「全体」になるのかな？この図で考えてみよう。 解釈

・（ICT の共有機能を使って）仲間がかいた図と自分がかいた図を比べて、違ったところや似ていたところを付け足してみよう。 解釈 振り返る

【自分の言葉で表現できるようにするための発問】

・ようするに、何算になるかはっきりするためには、どのように考えればよいの？ 統合

・自分の言葉で説明できるように、仲間がかいた図のかき方や説明でいいなと思ったところを付け足してみよう。 振り返る

・「部分」と「全体」という言葉を使って仲間に自分の言葉で説明できるかな？

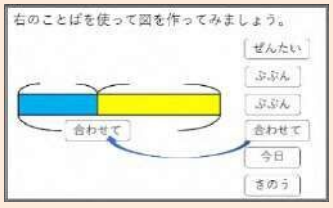
・まだ、自分で説明できない人は、先生と一緒に説明してみよう。 振り返る

・（他の場面を示して）じゃあ、この問題だったら、どうやって考えればいいのかな？ 発展

活用しよう ICT

自分のペースで理解しながら学習を進めることができる
〔児童生徒質問 28-(1)〕

図を使って問題場面を捉えることをねらいとしていることから、**図をかくことに苦手意識がある児童はデジタルノートに用意した図を使って考えづくりを行い**、自分の言葉で説明する活動時間を十分確保できるようにします。



小・算数 授業アイデア例Ⅰ②

学年	第６学年
単元	場合の数（組み合わせ方）
時期	10月または２月

根拠 解釈 統合 発展 の視点から発問を具体化しましょう。 すっきり

過程	学習活動
導入	○問題の提示 赤、白、青、緑の4チームで、バレーボールの試合をします。どのチームも、他のチームと１回ずつ対戦することにします。試合の組み合わせは、全部で何通りありますか。 ・問題解決の見通しをもつ。 ○ 課題 組み合わせを、落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。
展開	<考えづくり> ・方法を考え、大切な考え方を見つける。 【表①】 【表②】 【樹形図】 【図】 ・上の方法をもとに、図や表を使うことのよさと、すべての方法に共通する大切な考え方を明らかにする。 〈図や表を使うよさ〉 図や表を使うと、順序よくかき出すことができて、落ちや重なりなく調べられるよ。 〈大切な考え方〉 並べ方では、「赤―白」と「白―赤」はちがうから２通りだけれど、組み合わせ方では、どちらも同じことを表しているから１通りとするね。
終末	○評価問題に取り組み、自分の言葉で説明する。 問題に、さらに黄チームが加わり、5チームとなると、試合の組み合わせは、何通りになるでしょう。 ○本時の学びを振り返り、自分の考えを修正したり、付け足したり、学びの深まりを文章にまとめたりする。 ・NEW!GIFU ウェブラーニングに取り組む。

【表①】

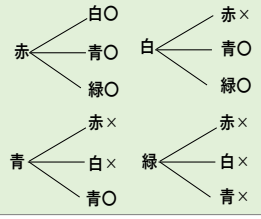
赤の試合	赤ー白	赤ー青	赤ー緑
白の試合	白ー赤	白ー青	白ー緑
青の試合	青ー赤	青ー白	青ー緑
緑の試合	緑ー赤	緑ー白	緑ー青

【表②】

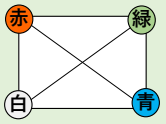
	赤	白	青	緑
赤		○	○	○
白			○	○
青				○
緑				

ICT

【樹形図】



【図】



個別の支援が必要な児童への指導

一つの方法で考えたことに満足している児童への指導

【全員が自分の考え（見通し）をもつための発問】

・これまで学習した「並べ方」と、ちがいはあるかな？ 解釈

・並べ方を考えたときには、どんな方法で求めたかな？
・習ったことで使えそうな「道具」や「考え方」はないかな？ 根拠

【誰一人取り残さないようにするための個に応じた発問】

・○○さんが、このように考えていた（ノート等を提示）けれど、どのようにして組み合わせを求めているかな？（クラウド共有） 解釈

・（ノート等を指し示しながら）足らない組み合わせはないかな？ 振り返る

・他の方法でも、組み合わせを求めることはできるかな？ 発展

・今までの学習と今日の学習のちがいは、何だろう？
・すべての方法に共通する大切な考え方は、何だろう？ 統合

仲間と交流することも思考を進める選択肢

「自分に必要なタイミング」で「目的」をもって交流することが大切です。

根拠 解釈 統合 発展 で交流し、自分の考えを 振り返る

【学習活動を振り返り、自分の考えを深めるための発問】

・並べ方を調べる時も、組み合わせ方を調べる時も、図や表を使うよさは何だろう？ 統合

・並べ方を調べる時と、組み合わせ方を調べる時のちがいから、大切にする考え方は何だろう？
・話し合ったことをもとにして、大切な考え方や自分に足りなかったことをノート等に付け足そう。 振り返る

自分の考えの飛躍や曖昧さに気付くためには、「振り返り」、**自分の考えを「修正したり付け足したりする」こと**が大切です。

5チームになっても、4チームのときと同じように、自分で表や図をかいて説明できるかな？

ICT

さらに6チーム、7チーム…と増えていくと、組み合わせの数は、どのように変化しいくのだろう？ 発展

活用しよう ICT

友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる〔児童生徒質問紙 28-(6)〕

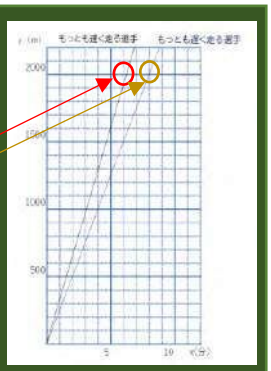
それぞれの考えを協働学習支援ツールで共有し、**いつでも個々が知りたいタイミングで、お互いの考えを見られる**ようにします。お互いの考えの共通点や相違点を、共有データをじっくり見ながら考え、自分の考えに付け足すように促します。

中・数学 授業アイデア例Ⅰ③

学年	第１学年
単元	比例と反比例
時期	10 月頃

根拠 解釈 統合 発展 の視点から発問を具体化しましょう。

すっきり

過程	学習活動
導入	○問題①の提示 ある駅伝大会の第１区間で、もっとも速く走る選手は分速320mで走り、もっとも遅く走る選手は分速250mで走ります。スタート地点から2kmの地点で応援をするとき、先頭の選手が通過してから何分何秒後に、最後の選手が通過するでしょうか。 ・問題解決の見通しを立てる。 ○ 課題 通過時間の差の求め方を、式やグラフを使って説明しよう。 <考えづくり> ・式やグラフで考えた過程を交流する。 ※本来の実践では、式も提示します。
展開	〈グラフを使った考え〉 y の値が2000のところを見ればいい y の値が2000のときの x の値は もっとも速い選手はおよそ6.2 もっとも遅い選手は8 この差を求めると 8−6.2=1.8 答え １分48秒  ・上記の解決の方法をもとに、考えに不十分なところはないか吟味する。 y の値が2000のところの x の値を見ればいいことが書かれていないね。 速い選手の x の値がおよそになっているけど本当にその値になるか根拠が曖昧だな。 「1.8 から１分48秒」はどう考えたのかな。 ・それぞれの考えをまとめる。
終末	○評価問題に取り組み、自分の言葉で説明する。 問題①で、応援する場所がスタート地点から 2.6kmになったら、先頭の選手が通過してから何分後に、最後の選手が通過するでしょうか。 ○本時の学びを振り返る。

自分で考えることはできるけれど、考えが十分でない生徒への指導

一つの方法で考えたことに満足している生徒への指導

【全員が自分の考え（見通し）をもつための発問】

・どのように求めればいいのかな？
・何を使って考えればいいのかな？
習ったことで、解決に使えそうな「道具」や「考え方」はないかな？
・まずは自分なりの見通しを書いてみよう。（クラウド共有）
→「お互いの見通しを見比べて、考えづくりの参考にしてもよいですね。」

根拠

ICT

【誰一人取り残さないようにするための個に応じた発問】

・○○さんが、このように考えていた（ノートを提示）けど、どう考えて差を求めているのかな？

解釈

・どうして6.2分だと考えたの？その理由を交流して見つけて付け足そう。

根拠 振り返る

・他の方法でも、差を求められるかな？
・式をもとにした説明と、グラフをもとにした説明を比べて、「求め方」としてまとめるとどうなる？

発展 統合

他の方法、類似場面、課題に対する結論など、「発展」、「統合」の視点を促しましょう。

【学習活動を振り返り、自分の考えを深めるための発問】

・ 黒板に示した表現では、通過時間の差を求める方法の説明としては不十分ですね。何が足りないのかを明らかにできるかな？ 根拠
・ このような問題の解決の方法として、どのようにまとめるとよいですか？ 統合
・ 話し合ったことをもとにして、不十分だったところや、大切になることを自分の考えに付け足したり、まとめたりしよう。 振り返る

【自分の言葉で表現できるようにするための発問】

・ 問題①の応援する場所を変えても、通過時間の差の求め方を、自分でも同じように説明できる？ 発展
・ 問題①と評価問題から、自分の言葉で説明するために必要なことを振り返ってみよう。

説明を聞いて「分かった」で終わらず、似たような場面で、自分でも表現することが大切です。

活用しよう ICT

友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる〔児童生徒質問 28-(6)〕

全員が自分の考え（見通し）がもてるようにするために、**見通しを端末に書き込むことで、一人一人が見通しを立てる**経験をするとともに、**見通しをクラウドで共有することで、お互いの見通しを参考に**したり、個人追究時に考えをもつための手がかりにしたりできます。

算数・数学 指導改善ポイントⅡ

もやっと

自分でやってみる時間を十分確保したいのに、
時間が足りなくなるときがあります。

ポイント

ねらいに応じて授業の展開を工夫しましょう。

展開例①

新しい知識や技能を学ぶとき

これまでの表し方では、表現できない・・・
→新たな知識・技能を教えて

○○を使ってやってみよう。

＋

表す意味は？
使い方は？
どんなときに使える？
自分でやってみる

☞ **必要感や意味を理解**できるよう一方的にならないように教える。

展開例②

「前と同じように」できるとき

同じように考えてできる？
→できそうだ。

○○も、■■と同じように考えてできるだろうか？

→できた！○○も・・・

＋

他でも同じようにできるか、
自分でやってみる

☞ **既習を生かして導入を短縮**し、追究する時間を確保する。

展開例③

「～のしかた」を考えるとき

同じように考えてできる？
→できない。○○が違う。

○○のような、
■■のしかたを説明しよう。

考えづくり

考え① 考え② 考え③

ようするに・・・・・

＋

似たような場面で、
自分で説明してみる

☞ 考えが行き詰まった時は、**教科書で調べたり、教師が提示したり**する。

授業の流れ

「自分でやってみる」時間が多くなるからこそ！

自分で学び進める力を育てましょう。

「分からない」と思ったときの学び方

「分かった」と思ったときの学び方

一人一人を見届け、指導しましょう。

見届け、個に応じるために ICT の機能を活用しましょう。

小・算数 授業アイデア例Ⅱ①

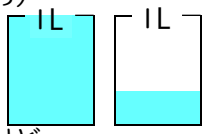
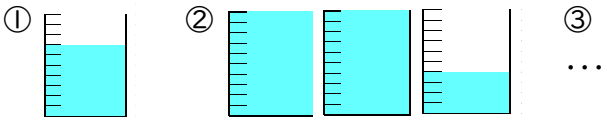
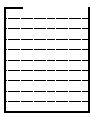
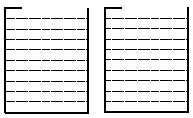
学年	第３学年
単元	小数
時期	10 月頃

学習内容を確実に教えて、習熟できるようにすることが重点となる時間があります。

すっきり

こんな展開に…

・1L より少ない水のかさを 0.1L のいくつ分で表す方法は、「教えること」だな。dL とつなげて**意味を十分理解**できるよう教えたいな。
・**いろいろ自分でやってみる中で、使い方やよさを学ぶ時間を十分確保**したいな。

過程	学習活動
導入	○問題の提示（実物をカメラで拡大しながら） 水のかさは何 L でしょう。  ・1L とあと少しあるよ。dL を使えば表せるけど。 ・あと少しのかさは、何 L といえばいいのだろう。
展開	教えること：1L を10等分した1こ分のかさを 0.1L と書きます。（表し方、読み方） 0.1L の2こ分は 0.2L、0.1L=1dL等 課題 「0.1L のいくつ分」の考えを使って、何 L か表そう。 習熟：教科書の評価問題の大問が分かれていたら、その意図を読み取り、それぞれの内容が理解できるように指導する。 ・水のかさを読み取る問題  ・水のかさを L ますに表す問題　（クラウドで節目ごとに解答共有） ① 0.6L  ② 1.5L  ICT
終末	・LとdLの関係を小数を用いて表す問題 ① 3L8dL=□L　② 2.9L=□L□dL　③ ・・・ ○ 本時の学びを振り返る。 ・どんなことができるようになったのかな？ 1L より少ないかさは、1L を10等分した1つ分の「0.1L のいくつ分」かを考えると、L だけを使って小数で表すことができるよ。 ・このことを使って、他の量も表せないかな？（交流）

【教える際に留意したいこと】

必要感をもたせ、一方的にならないようにすることが大切です。

○ **必要感や、意味理解を促すようにする**
・ L を単位とすると、新しい表現が必要だと気付くようにする。

○ **子供に問い返しながら確認する**
→「1dL とは、どんな量でしたか？」
「では 0.1L が3つ分だと、何 L と表せる？」
「同じように『0.1L のいくつ分』の考えを使って、いろんな量を表せるかな？」 など

【習熟の際に留意したいこと】

○ **理由が分かり、図と関連付いているかを確認**
・根拠や解釈を問い、子供の理解を見届ける。
→「どうしてその量になるといえるの？」
→「0.6L の『6』と図のどこを見て分かったの？」

根拠　解釈　※指導改善ポイントⅡ参照

確かな理解のために、考えの根拠を説明したり、図や言葉や式を関連付けたりする指導が大切です。

○ **新たな知識・技能のよさに気付くように促し、振り返る活動の設定**
→「小数を使うと1つの単位だけで量を表現できるね。」、「小数を使って他の量も表せないかな」と、よさに気付くように促す。

どうしてこの展開が大切なのか

「教えること」を子供に考えさせてしまうと時間が足りなくなることが多いです。学んだ知識・技能がどのように使えるかを考えながら、自分でやってみる時間を十分に確保することが大切です。

活用しよう ICT

自分のペースで理解しながら学習を進めることができる〔児童生徒質問 28-(1)〕
・**協働学習支援ツールのクラウド共有機能で、節目ごとに解答を共有**します。
→子供は、**分からないとき・分かったと思ったときは、共有した仲間の解答を参照して確かめます。**
・**NEW!GIFU ウェブラーニング**に取り組みます。先生は**リアルタイム把握機能で、一人一人を見届け指導**します。

小・算数 授業アイデア例Ⅱ②

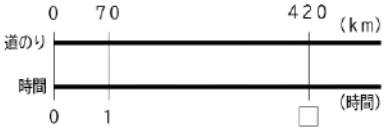
学年	第５学年
単元	速さ
時期	10月または２月頃

前の学習内容と「～も、同じように考えていけばよい」と考えることが重点となる時間があります。

すっきり

こんな展開に…

速さ、道のり、時間の数量関係の理解を深めるためにも、**導入場面では、既習とつなげて**「前時までの方法が使えそうだ」と考えられるようにしよう。授業の終末には、これまで**学んだことを使って他の場面でもできるか、自分でやってみる活動を充実させよう。**

過程	学習活動
導入 展開 終末15分	○問題の提示 時速70km で走っている自動車があります。この自動車が420km 進むのは何時間かかりますか。 ・今日は「速さ」と「道のり」から「時間」を求める。 前時の終わりに、疑問が残っていた問題だね。 前時は、このように考えたね。同じようにできるかな？ ○ 課題 「時間」が分らないときも、**前と同じように**、数直線図を使って求めることはできるだろうか。 ・□の位置が変わるな。 ・前時は数直線図を書いて、比例の考え方を使ったな。  <自分でやってみる> ・数直線図から、70から420は 420÷70=6(倍)だから… ・時速70kmは、1時間で70km進むということだから、 □時間に420km 進むとすると、 70×□=420 □=420÷70 答え．6時間 これまでと同じように、「速さ」の意味をもとに考えたり、数直線図で場面を整理したりして考えたね。 ○ まとめ 時間が分からないときも、前と同じように数直線図を使って比例の考えを使って求めることができる。 時間=道のり÷速さ で求めることができる。 他の場面でも同じように自分で説明できるかな？ ○類似問題等に取り組む ・「速さ」の意味を正しくとらえているかを確認する問題 「数直線図に整理して、黒板と同じように自分でもやってみよう。」 ・まとめを使って解く問題 「実際に『時間を求める式』を使ってみよう。」 ・本時と今までに学習した内容を含めた問題 「何を求めるのかを読み取って、これまで習った公式を使って、求めてみよう。」 ・早くできた子は・・・ ・困っている子は・・・

【導入の際に留意したいこと】

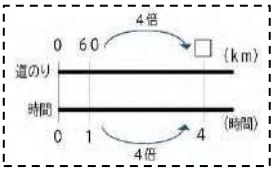
○前時の終わりに「本時の見通し」を立てる

・前時「速さと道のりが分かっていて、時間を求める場合もできるかな？」と疑問が残っていたね。

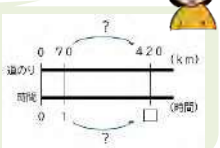
○既習の求め方と比較して見通しを立てる

・「分かったこと（まとめ）」や「使った道具」だけでなく、本時活用できそうな「考え方」を振り返る。

※比較しやすいように前時のまとめ・児童のノートを提示する



同じように考えればできそうだ



既習内容は「教えてもよいこと」と捉え、**簡潔に振り返り**、「本時考えること」にじっくり取り組めるようにしたいです。

【まとめの後に留意したいこと】

○自分で表現することで内容理解を図る

→自分で場面の数量関係を整理し、黒板と同じように求めることができるか。
→本時を含め見出した公式を活用できるか。
→本時の内容だけでなく、関連するこれまでの内容を、問題に合わせて「判断・選択する」ことができるか。 など。

自分でも表現することで、曖昧さに気付いたり、理解が深まったりします。

○「できて暇」、「できずに止まる」とならない工夫

→理解が曖昧な子を教師が集めて教える。
→NEW!GIFU ウェブラーニングを活用する。
→難易度の高い問題を用意しておく。 など

ICT

どうしてこの展開が大切なのか

単元のねらいから、単位時間のつながりを活かすと、課題化は短時間で行うことができます。こうすることで、課題解決場面や習熟場面において十分な時間を確保して見取ることができ、即時的な指導・評価につなげることができます。

活用しよう ICT

自分のペースで理解しながら学習を進めることができる〔児童生徒質問 28-(1)〕

進み具合に差があっても個別に学習を進めるために、**どこにどんな問題があるかを子供とあらかじめ共有しておきます。（自分で選択して学習できるようにします。）**

NEW!GIFU ウェブラーニング 「にがてクリア※」が活用できます。（※分かるところまで戻って学習できる機能）

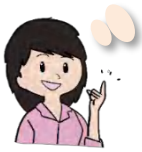
中・数学　授業アイデア例Ⅱ③

学年	第２学年
単元	平行と合同
時期	11 月頃

単元の中核となる考え方（しかた）をつくる時間や既習を活用して考えることが重点となる時間があります。

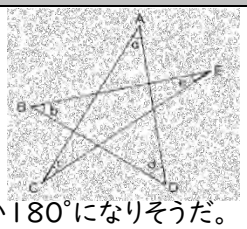
すっきり

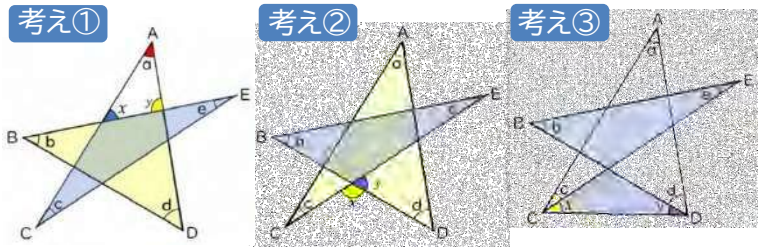
こんな展開に…

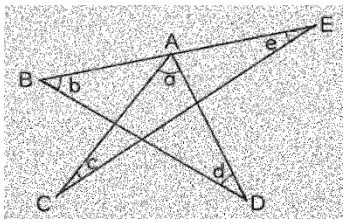


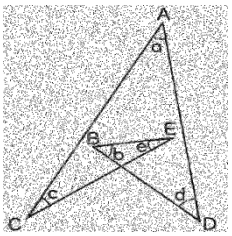
前時までに学習した性質を根拠として**説明する活動に時間を使いたい**な。いろんな考え方や発展的に考察できる問題だから、考え方を交流して、1問でまとめて終わりにするのではもったいない。条件を変えた図形で、もう一度**自分で説明する**活動を充実させたい。

過程	学習活動
導入	○問題の提示 星形の図形の先端にできる5つの角の和を求めよう。 ・何度になりそうか角度を測ってみる。 ・測り方によって誤差が出るけど、だいたい180°になりそうだ。 ○ 課題　図のような星形の図形の先端の角の和が180°になることを説明しよう。
展開	<考えづくり> （教科書を示して）これはどんな考え方だろう？ ○さんは、別の考え方をしていたよ。交流してみよう！ 考え①　考え②　考え③ なるほど、そういう発想はなかったな。だったら、・・・と考えていけばよさそうだ。 ようするに・・・ どれも今まで習った図形の性質を使って、三角形の内角に角を集めたり、直線に角を集めたりして180°になることを説明しているな。
終末	条件を変えた星型でも同じことがいえるのか、『根拠』と『順序』を意識して説明を書きましょう。 （シミュレーションで条件を変えた図形を考察） ○本時の学びを振り返る。









ICT

【考えが進んでいかない際に留意したいこと】

○ **考えづくりが滞っている子供には、思考を促す働きかけをする**

→考え方が思い付かない場合は、教科書で調べたり、教師が示したりして、考えが進むように促す。

→必要なタイミングでクラウドや仲間との交流で手がかりを探したり確認したりする。

子供が気付かない場合は、**提示したことを土台に考える**ことも大切です。思考が進むよう**即時評価・指導**しましょう。

【説明を記述する際に留意したいこと】

○ **根拠に基づいて筋道立てて表現する**

→図と式と言葉をつなげながら、考えを順序立てて書く。（自分なりの論理を書く）

→使った図形の性質名（算数・数学用語）を書く。

初めは表現の**ポイントを確認**することも大切です。

根拠　解釈　統合　発展　※指導改善ポイントⅡ参照

○ **自分の説明を振り返る**

→仲間の考えと比較・吟味し、曖昧なところがないか、論に飛躍がないかなどを見直すことで、不十分なところを自分自身で補うことができるようにする。

飛躍や曖昧さはないか？と自分の考えを**修正したり、付け足したり**することが大切です。

どうしてこの展開が大切なのか

いくつかの考え方を交流した後、似たような場面でもう一度、自分で説明をしてみる場を位置付けます。本当に理解できているかを確かめることが、思考力・判断力・表現力等を育むことにつながります。

活用しよう　ICT

画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かるようにする〔児童生徒質問 28-(1)〕

発展的な考察を促すために、条件を変えた図形等を提示します。本時追究した星形を、**シミュレーションソフトを使って頂点を動かしながら、形を変えて示します。**そうすることで、「同じ三角形に着目すればよさそうだ」や「同じ図形の性質が使えそうだ」などのイメージをもちやすくなります。

児童生徒質問調査

質問調査の結果は、自校の指導改善の方向を明確にする一助となります。

1 令和６年度の質問調査の結果（岐阜県）から見えてきたことは何でしょうか？

児童生徒質問調査及び学校質問調査には、学習指導要領や生徒指導提要等で述べられている、「このような児童生徒を育成したい」という願いが込められている質問が多くあります。とりわけ、児童生徒質問調査によって、当該学年児童生徒の学習と生活の状況について、その特徴や傾向を読み取ることができます。

今回は、児童生徒質問調査の中で、「（１）ICT 機器を活用した学習状況」、「（２）授業改善に関する取組状況」、「（３）自己肯定感に関する状況」を取り上げ、各教科の平均正答率との関係について見ていきます。

（１）ICT 機器を活用した学習状況

ICT 機器の活用頻度

校種	質問番号	質問項目	「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合（%） 岐阜県（R6）	全国（R6）	全国との差
小	27	５年生まで〔1、２年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	31.1	25.3	5.8
中	27		50.6	31.0	19.6

ICT 機器の活用頻度に関して、「ほぼ毎日」使用していると回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均より高いことが分かります。

ICT 機器活用の効力感

校種	質問番号	質問項目	「とてもそう思う」と回答した児童生徒の割合（%） 岐阜県（R6）	全国（R6）	全国との差
小	28	(1) ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	34.8	33.8	1.0
中	28		33.1	28.7	4.4
小	28	(2) ICT機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。	59.9	58.4	1.5
中	28		70.1	62.8	7.3
小	28	(3) ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる。	45.2	46.9	▲ 1.7
中	28		42.1	39.1	3.0
小	28	(4) ICT機器を活用することで、画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよく分かる。	48.7	47.6	1.1
中	28		48.1	42.9	5.2
小	28	(5) ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。	35.5	33.3	2.2
中	28		36.9	30.1	6.8
小	28	(6) ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	47.3	44.6	2.7
中	28		48.7	41.0	7.7
小	28	(7) ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる。	46.7	46.2	0.5
中	28		45.3	39.8	5.5

ICT 機器活用の効力感に関して、「とてもそう思う」と回答した児童生徒の割合は、一部の質問項目を除いて、小・中学校ともに全国平均より高いことが分かります。

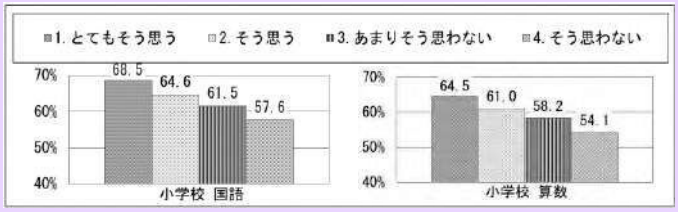
Point

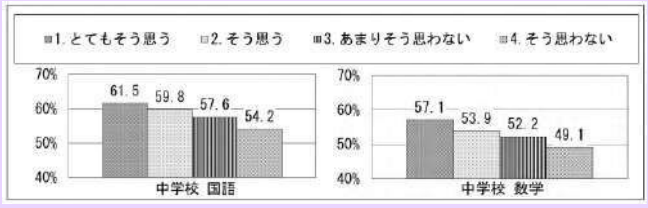
ICT 機器は、**「個別最適な学び」**と**「協働的な学び」**の一体的な充実を図る上で、必要不可欠であると言えます。

左の質問項目（1）～（7）を **ICT 機器の効果的な活用を図る「視点や方法」である**と捉え、授業改善に生かすことが大切です。

クロス集計「ICT 機器活用の効力感」×「平均正答率」

ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思いますか。〔児童生徒質問 28-(6)〕





ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思っている児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。今後も、課題解決の過程において、児童生徒が目的に応じて **ICT 機器を効果的に活用**できるようにすることが大切です。

（２）授業改善に関する取組状況

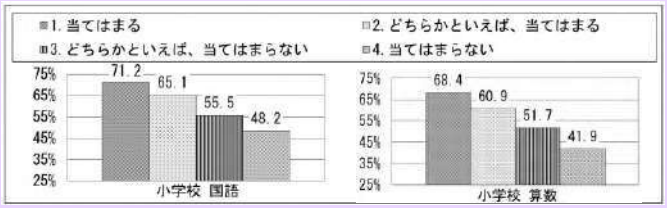
主体的に学習に取り組むこと

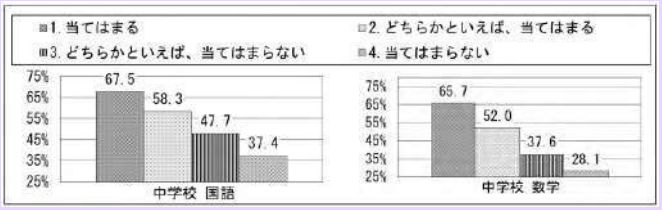
校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（%）		
			岐阜県（R６）	全国（R６）	全国との差
小	30	５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	31.2	29.5	1.7
中	30		35.0	27.2	7.8

主体的に学習に取り組むことに関して、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均より高いことが分かります。

クロス集計「主体的に学習に取り組むこと」×「平均正答率」

５年生〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔児童生徒質問 30〕





主体的に学習に取り組んでいる児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。今後も、指導のねらいや意図を明確にし、**児童生徒を主体にした授業**をつくることが大切です。

Point

児童生徒を主体にした授業とは、**児童生徒を自由気ままに放任することではありません。**重要なことは、①課題解決への切実感を高める、②調べ方やまとめ方等の「学び方」を教える、③つまずいている子へ支援（発問、助言等）する、④学び合いをコーディネート（方向付け等）する、⑤考えや表現の変容を児童生徒が自覚できるようにするなど、**児童生徒の発達の段階や学習状況等に応じて、教師が適切な指導をしながら、児童生徒の多様な願いや思いを尊重することです。**

（３）自己肯定感に関する状況

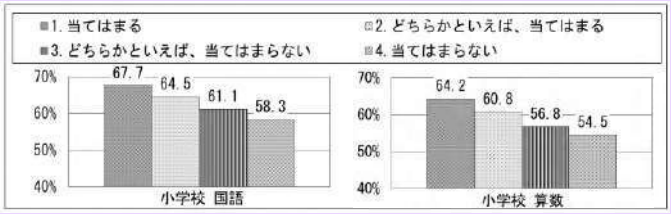
自己肯定感

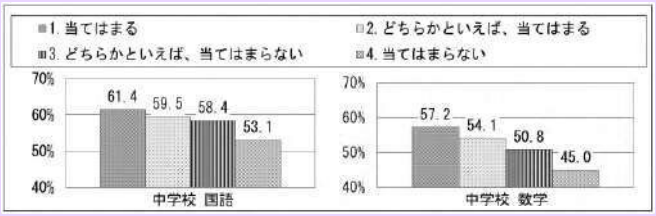
校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（%）		
			岐阜県（R６）	全国（R６）	全国との差
小	9	自分には、よいところがあると思いますか。	42.1	43.4	▲ 1.3
中	9		42.3	40.4	1.9

自己肯定感に関して、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国平均と比べて小学校で低く、中学校で高いことが分かります。

クロス集計「自己肯定感」×「平均正答率」

自分には、よいところがあると思いますか。〔児童生徒質問 9〕



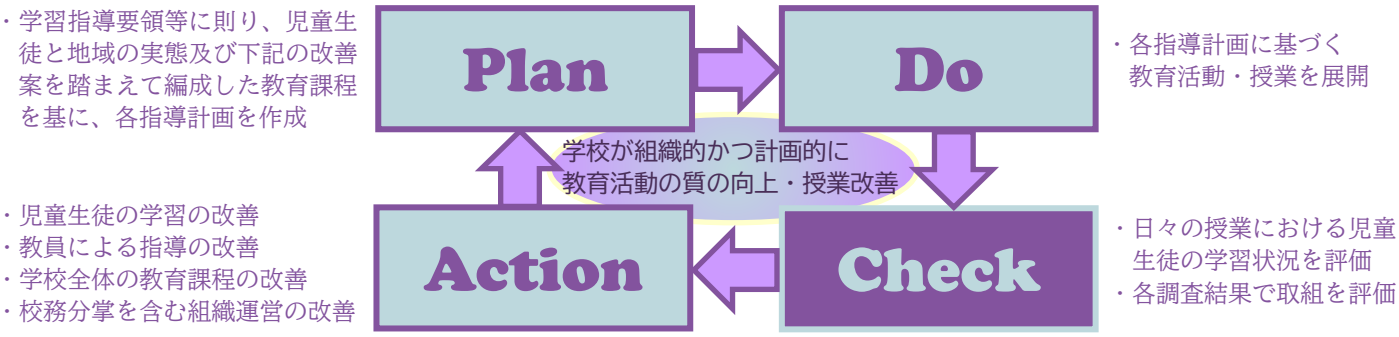


自己肯定感の高い児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。今後も、児童生徒の自己肯定感を高めるために、学校生活の大半を占める授業を核にして、各教科の特質に応じた学びの姿を見取り、**積極的に価値付ける**ことが大切です。

Point

教師は、児童生徒の発想や着眼点等を肯定的に受け止めて、個性を発見し、伸長するように心がけなければなりません。まさに**「褒めて伸ばす」**ことが重要です。児童生徒は、褒められることで、自分への「自信」と次への「意欲」をもちます。こうした積み重ねが**学力向上につながる**と考えます。褒めるときには、小さな成功体験を積ませたり、その子なりの努力や成長を認めたりすることなどに留意しましょう。

2 PDCA サイクルを基に、質問調査の結果を有効活用しましょう。



質問調査の結果は、昨年度の全国学力・学習状況調査以降の１年間の取組の成果と課題が表れていると言えます。PDCA サイクルに基づき、質問調査の結果を有効活用しながら、自校の指導計画やこれまでの取組等を振り返り、目の前の児童生徒に必要な資質・能力を育むことを目指した指導改善を図ることが重要です。

3 注目していた質問の回答結果から、自校の取組の状況を評価しましょう。

令和５年度の全国学力・学習状況調査以降の１年間に、自校の指導改善プランに沿って力を入れて取り組んできたことは何ですか？その取組の成果が表れるだろうと注目していた質問はどれですか？例のように、令和６年度の全国や県の結果、令和５年度の自校の結果と比較しながら、令和６年度の児童生徒の学習状況を評価してみましょう。

（例１）主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組んできた学校

校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（%）				質問番号（R５）
			全国（R６）	岐阜県（R６）	自校（R６）	自校（R５）	
小	29	５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	25.9	25.5			32
中	29		22.2	26.1			36
小	30	５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	29.5	31.2			33
中	30		27.2	35.0			37
小	33	学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。 ※　R５までは「自分の考えを深めたり、広げたりする」という文言	41.4	41.8			36
中	33		36.4	42.1			40

（例２）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に取り組んできた学校

校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（%）				質問番号（R５）
			全国（R６）	岐阜県（R６）	自校（R６）	自校（R５）	
小	32	５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	34.4	36.3			35
中	32		24.9	28.1			39
小	37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	47.8	49.0		－	－
中	37		46.1	52.3		－	－

4 令和７年度の質問調査に向けて、自校で注目する質問を決め出しましょう。

令和７年度は、どの質問に注目しますか？令和６年度の実績に基づいて、目標を何％に設定しますか？その目標値に近づくために、具体的に何に取り組んでいきますか？

自校で各職員が書き出したことを取りまとめ、学習指導部会、学年部会、教科部会、研究推進委員会等で話題に挙げ、更なる授業改善に学校全体で取り組みましょう。

質問調査の回答分析には、1）と2）を合わせた「肯定的回答」ではなく、**1）の「肯定回答」の割合**に注目しましょう。

1） 当てはまる
2） どちらかといえば当てはまる
3） どちらかといえば当てはまらない
4） 当てはまらない

2）や3）と回答した児童生徒が1）と回答できるように、原因を分析し、個々の学習状況等に即した指導改善を図ることが大切です。

4）と回答した児童生徒も同様ですが、実際には特別な配慮や支援が必要なことも考えられます。

質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（%）	
		R７（自校の目標）	R６（自校の実績）

目標値に近づくために、具体的に何に取り組んでいきますか？

【参考】「令和６年度　全国学力・学習状況調査　結果分析ソフト」の有効活用を！

令和６年８月に岐阜県教育委員会より、「令和６年度　全国学力・学習状況調査　結果分析ソフト」（小学校用、中学校用）を各市町村教育委員会を通じて各学校に送付しています。自校の結果を分析する際に有効活用していただき、学校ぐるみの徹底した取組によって、児童生徒の学力向上を図りましょう。

＜主な特徴＞

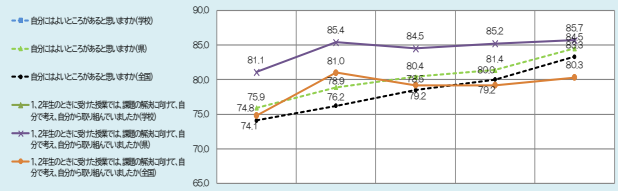
文部科学省から提供された全国学力・学習状況調査の調査結果データを入力することで、・・・

- ○ **各教科の平均正答率の推移や問題別の調査結果一覧**が自動的に作成されます。
- ○ **児童生徒質問調査や学校質問調査の回答状況の全国との比較、県との比較等**ができるシートが自動的に作成されます。

◆第４次岐阜県教育振興基本計画（R６～R１０）において「目標」と示された内容について

自校の状況

○ 自立力　「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合（%）



番号	質問項目	R2	R3	R4	R5	R6
(9)	自分にはよいところがあると思いますか（学校）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自分にはよいところがあると思いますか（県）	75.9	78.9	80.4	81.4	84.5
	自分にはよいところがあると思いますか（全国）	74.1	76.2	78.5	80.0	83.3
(30)	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（学校）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（県）	81.1	85.4	84.5	85.2	85.7
	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（全国）	74.8	81.0	79.2	79.2	80.3

◆学校での学習について【児童質問調査】

自校の状況

○ 主体的・対話的で深い学びの視点　「当てはまる」と回答した児童の割合（%）

番号	質問項目	回答割合 自校	岐阜県	全国	自校と県との差	自校と全国との差
(29)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(30)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(33)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

○ 個別最適な学びと協働的な学びの視点　「当てはまる」と回答した児童の割合（%）

番号	質問項目	回答割合 自校	岐阜県	全国	自校と県との差	自校と全国との差
(32)	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(37)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

令和６年度　全国学力・学習状況調査　結果分析ソフトの内容（一部抜粋）

下記の資料を参考にすると、調査結果の分析や具体的な授業改善の手立てが更に明らかになります。

■国関係資料

国立教育政策研究所

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html

○　令和６年度　全国学力・学習状況調査　解説資料
- 小学校、中学校別冊…国語、算数・数学

○　令和６年度　全国学力・学習状況調査　報告書
- 小学校、中学校別冊…国語、算数・数学
- 小学校、中学校合冊…質問調査

○　令和６年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会【説明資料】

※　令和５年度以前の関係資料も掲載されています。

■県関係資料

ぎふっこ学び応援サイト　教員用ページ「全国学力・学習状況調査」

https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/18428.html

○　指導改善資料

※　令和５年度以前の関係資料も掲載されています。

ぎふっこ学び応援サイト　教員用ページ「ICT の効果的な活用」

https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/61777.html

○　＜学びを変える＞ ICT 活用ガイド

令和６年度　全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた

指導改善資料 2024

令和６年９月２０日

編集・発行　岐阜県教育委員会　義務教育課